

市政運営の 基本的考え



武蔵野市長
むらかみ もりまさ
邑上 守正

自治と平和

我が国が誇るべき平和憲法が施行されて、本年度70年となります。世界の平和に向けた我が国の役割を再認識し、市民とともに平和事業を推進し、市内外に平和の大切さを発信していきます。

これまで築かれた市民自治の歴史を振り返り、これからの本市にふさわしい自治のあり方を自治基本条例(仮称)として、制定を目指します。

災害に強いまちづくり

昨年は、熊本地震が発生し、また年末には新潟県糸魚川市での大規模火災も起こりました。これらの経験を教訓にして、今後首都圏でも起こりうる直下型大地震を前提とした震災対策やさまざまな災害対策など、自助、共助、公助の視点で災害に強いまちづくりに取り組めます。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けて

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会まで3年半余りとなりました。本市も開催都市の構成自治体として可能な協力を最大限行うとともに、これを契機に市民スポーツや市民文化の醸成、ユニバーサルなまちづくりを目指します。

ユニバーサルなスポーツ・文化の展開
世代の違いや障がいのあるなしを超えて、すべての人が楽しめるものとして、スポーツイベントや講演会、パネル展などで「Sports for All」の理念を広く実践していきます。併せて、武蔵野アール・ブリュット2017の開催を含め、多様な芸術文化活動を支援するとともに、オリンピック・パラリンピックを契機に文化プログラムの充実を図ります。

文化の振興および文化の波及効果を生かした地域の持続的発展を目指すため、本市における文化施策を体系化し、施設整備を含めた方向性を示す文化振興基本方針(仮称)の策定を進めます。

一人ひとりを大切に

昨年スタートした、いきいきサロン事業の拡充や、シニア支え合いポイント制度の活用などを含めて社会参加や生きがいづくりなどを推進し、健康長寿都市を目指します。

男女平等の理念のもと、誰もが希望を持ってその人らしく生きていける社会の実現を目指し、男女平等の推進に関する条例の制定を進め、男女平等施策の積極的な推進を図っていきます。

子どもたちの笑顔をはぐくむ

本市の出生者数は、近年増加傾向となつていますが、一方で保育園待機児童数は昨年4月時点で122人と、依然として解消できていません。しかしながら、これまでの取り組みにより、保育施設の設定は、この10年余りで倍増となる予定です。加えて平成29年度には、認可保育所5園および認証保育所3園の新規整備によりさらに定員拡充を行い、待機児童解消を目指します。

教育環境の充実と子どもの貧困対策

各学校に無線LAN環境を構築するとともに、タブレット端末の配置を行うなど、ICT利活用の推進を図ります。教育格差が貧困の連鎖へとつながらないよう、学習支援や高等学校等修学支援事業の創設、就学援助費の入学前支給の実施など、子どもたちに寄り添った必要な支援を充実していきます。

循環型都市づくりに向けて

新クリーンセンターがいよいよ4月から本格稼働となります。ごみ焼却などの機能のみならず、ごみ発電やガスコージェネレーション発電、太陽光発電などの設備を備え、循環型都市づくりの新たな拠点としての役割を担います。

個性輝く三駅周辺のまちづくり

吉祥寺駅周辺では、井の頭恩賜公園の開園100周年記念イベントやゾウの

はな子像の設置などの事業を契機に、公園と一体となった吉祥寺の魅力を再確認し、さらなる魅力づくりに取り組みます。

三鷹駅周辺は、「三鷹駅北口街づくりビジョン」に基づき、玉川上水に近接する緑豊かな北口駅前広場と連続する落ち着きある北口地区のまちづくりを進めていきます。

武蔵野駅周辺は、昨年北口駅前広場が完成しましたが、今後、南口駅前広場のバリアフリー化や外国人に対応したサインの整備など、ユニバーサルなまちづくりを目指します。

強く美しいまちづくり

建物の耐震不燃化は、安全・安心な都市づくりの基盤となるものです。平成32年に住宅の耐震化率を95%とする目標を掲げ、耐震改修などの一連の取り組みに対して補助制度を大幅に拡充し、耐震化に向けた支援を加速化していきます。

健全な市政運営に向けて

昨年12月に策定した「第五次行財政改革を推進するための基本方針及び行財政改革アクションプラン」に基づき、経営力の向上と健全財政の維持に努め、持続可能な都市づくりを進めていきます。

(平成29年度施政方針並びに基本的施策「より要約。予算案については、P.14 特集2へ)